

「自立した学習者」を育てる教育活動 Q&A

Q 「自立した学習者」を育てる教育活動とは、学習指導要領等とどう関連があるのですか

A 学習指導要領総則 第3 教育課程の実施と学習評価の1 主体的で対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の（4）（6）に以下のとおり示されています。

- （4）児童（生徒）が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を、計画的に取り入れるように工夫すること。
- （6）児童（生徒）が自ら学習課題や学習活動を選択する機会を設けるなど、児童（生徒）の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習が促されるよう工夫すること。

「何を学ぶか」だけでなく「どのように学ぶか」、そして「どこまでできたかを振り返る」といった教育活動を充実させていく必要があります。今までの教育活動にまったく新しい視点のものを付け加えるということではありません。

Q 内容によって教師が教えるべきこともあると思いますが

A これまでのよう、教えるべきことは教えます。ただ、「自立した学習者」を育てる教育活動の実現を図るには、子供自らが学び方を学ぶ場を教師が意図的に設定します。

そのため、教師には子供の学びに向かう気持ちを掘り起こし、理解度や認知の特性に応じて個々のペースで学べるよう支えていく役割を担っていくことが求められています。



Q ICT機器をどのように活用すればよいのでしょうか

A インターネットを使ってものごとを調べたり、既製のアプリ等を使って学習したりするだけでなく、ICT環境を通して、他者の考え方や成果物などを端末上で共有できる場や機会をつくっていくことが考えられます。

これにより、一人一台端末で他者の学習状況を参照でき、教師の手を介さずに、子供が自ら参考にしたいタイミングで、互いの成果物を共有できるようになると考えます。



Q 教科等の学習以外における「自立した学習者」を育てる教育活動の在り方は

A 本リーフレットは、授業場面を中心に「自立した学習者」を育てる教育活動の在り方について説明をしていますが、すべての教育活動において、「自立した学習者」を育てていくことが必要です。

児童会・生徒会活動や学校行事などの活動においても、「計画」「選択」「調整」「協働」という視点でとらえ直し、そのような場面を設けていただきたいと考えます。

「自立した学習者」を育てる教育活動の在り方



「自立した学習者」を育てる意義とは何でしょう。次のように答えた教師がいました。



子供から「先生と一緒にずっと学びたい」と言われることほど、教師としてうれしいことはありません。しかし、教師は、子供からいつかは離れなくてはなりません。離れても、**その子供が一人でも学び、自らを高めていくことができる力をつけていく**のが教師の大切な役割だと思うのです。

これから社会の状況は、とても予想できません。**どのような社会となっても生き抜いていく力をつけてあげたい**。ここに自立した学習者を育てる意義があると思うのです。

真摯に子供と向き合い、全ての子供たちに一定水準の教育を保障してきた従来の日本型学校教育は、諸外国から高く評価されてきました。しかし、コロナ禍における長期の臨時休業期間中、学校や教師からの指示や発信がないと、子供の学びが停滞してしまったことは、令和における学校教育の課題の一つとして指摘されています。

そこで、学校や教師からの指示や発信がなくても、学び方を得て、自分で学ぶ子供を「自立した学習者」とし、「自立した学習者」に必要な資質・能力を次のように整理しました。

「自立した学習者」とは

計画できる子

選択できる子

調整できる子

協働できる子

○子供が自分に合った方法で「自分で学びたい」という思いをもたせるためにはどうしたらよいか。
○教師が子供に伴走し、子供の思いや学びをどう支えたらよいか。

本協議会では、小・中学校の教育活動における『「自立した学習者」を育てる教育活動の在り方』を協議題とし、子供自らが学び方を学ぶ授業づくりについて研究の成果をまとめました。教育活動のさらなる充実への一助となれば幸いです。

「自立した学習者」を育てる教育活動の実現に向けて ～子供自らが学び方を学ぶ授業づくり～

「自立した学習者」を育てるために、「教師が教え込む授業」から「子供が学びとる授業」へと転換を図ることが必要です。授業の中に【計画】【選択】【調整】【協働】の場面を仕組むことで、子供は学び方を学び、「自立した学習者」に育っていくと考えます。



子供が【計画】する姿

★問い合わせをもつ・何を学ぶかをつかむ

- ・学ぶことにあつ
- ・本時のめあてをもつ
(何がわからればよいか・何ができるようになればよいか)
- ・単元や本時の内容の見通しをもつ

教師の働きかけ

★学習の動機付けや方向付けをする

- 問い合わせをもつ活動等を用意する
- 単元・題材のまとまりを見通した学習目標を提示する



磁力や極についての学習に対する興味・関心を高める活動を用意します。

子供が学び方を学ぶ場面

計画

調整

選択

協働

子供が【選択】する姿

★どのように学ぶかを決める

- ・学習に用いるツール（学び方）を選ぶ
- ・自分の技量や理解度等に合った課題を選ぶ
- ・誰と学ぶかを選ぶ（一人で学ぶことを含めて）

教師の働きかけ

★個別最適で多様な学び方ができるよう工夫する

- 子供の技量や理解度等を見据え、活動の選択肢を設ける
- 子供の思考や意向を想定し、自分に合った教材や学習方法等を選択できるように環境を整える



「こうしたい」「これをしたい」「あかなりたい」など、子供の思考等に沿って、教材や学習内容等をいくつか用意します。



子供が【調整】する姿

★どこまでできたかを振り返る

- ・自分の学びの成果や学びの進み具合を確認する
- ・自分の成果物や学びに対する振り返りをしたり、他者から評価を受けたりする
- ・自分の学びの成果や課題を把握して、次への学びに生かす

教師の働きかけ

★個々の学びの成果を把握しつつ、学びの価値付けをする

- 子供が成果や課題を認められる問い合わせや価値付けを行う
- 子供が自分や他者の学びを容易に参照できる環境を整える



活動を通して得た振り返りを次の学びへ生かせるよう、問い合わせや価値付けを丁寧に行い、学び続ける子供を支えていきます。



子供が聞きたいときに聞いたい人のところへいける学習の進め方にもチャレンジします。

子供が【協働】する姿

★他者と学び、学びを深める

- ・子供同士や地域の方々など、多様な他者と協働して学びを深める
- ・対話や端末活用等を通して、意見や考え等を交流する
- ・他者があつ、自分とは異なる考え方や感性に触れ、自らの考えを更新する

教師の働きかけ

★他者といつでもどこでもつながる場づくりに努める

- ICT環境下でも子供同士の考え方等を共有できるようにする
- 子供の個々の学習の進捗を把握し、支援が必要な子供を支援する
- 子供が他者と協働して成し遂げた経験を味わう機会を設ける